

**発言順序1「6番」加藤代史子議員**

1 医療的ケア児への支援について

(1) 平成28年に児童福祉法が改正され、国連の児童の権利に関する条約の主旨にのっとり、全ての子供たちが適切な養育を受ける権利を有し、健やかな成長と発達を遂げ、自立を保障される権利の主体であることが明確になり、医療的ケア児への対応は地方公共団体による社会的責任のもとに整備することが明確にされた。

そこで、以下3点を問う。

- ① 医療的ケア児の現状は把握しているか。
- ② 医療的ケア児への具体的な支援策について現状と課題はどうか。
- ③ 保育園における医療的ケア児の受け入れについての考えはどうか。

2 認知症対策について

(1) 現在、常滑市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画が実施される中、昨年12月「愛知県認知症施策推進条例」が制定され、今年6月には「認知症施策推進大綱」が国から発表された。住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けられる「共生」を目指し「認知症バリアフリー」の取り組み、共生の基盤のもと、通いの場の拡大など「予防」の取り組み等が求められている。

そこで、以下3点を問う。

- ① 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に伴う市の対応はどうか。
- ② 認知症サポーターの現状とステップアップ研修など、活動に向けた取り組みはどうか。
- ③ 常滑らしい「認知症施策推進条例」を制定し、認知症施策を推進する考えはどうか。

3 災害時における福祉支援体制について

(1) 内閣府は平成28年に「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」を発表した。災害時において支援を必要とする要支援者が、円滑にそして迅速に避難

するための支援体制を整えておく必要がある。

そこで、以下4点を問う。

- ① 支援を必要とする要支援者の登録状況と課題は何か。
- ② 災害時避難支援プラン個別計画の策定状況はどうか。
- ③ 一般避難所となっている小学校などの特別教室を「福祉避難室」に指定する考えはどうか。
- ④ 配慮が必要な高齢者や障がい者などを支援する「災害派遣福祉チーム（DCAT）」のような人材確保についての考えはどうか。

#### 4 市民病院における聴覚障がい者への対応について

(1) 平成30年12月愛知県内初となる手話に特化した条例、「常滑市あなたとわたしの心をつなぐ手話言語条例」が制定され、市の責務も明確にされた。

そこで、以下を問う。

- ① 市民病院での聴覚障がい者への対応について、現状と課題は何か。

### **発言順序2「13番」稲葉民治議員**

#### 1 常滑市のごみ施策全般について

(1) 現在、本市では知多南部広域環境センターの供用開始に向けて取り組んでいる。また、ごみ減量は大切な課題であり、市として引き続き力を入れて取り組んでいかなければならない。このことは常翔会内で議論をしているが、本市のごみ施策全般について、以下6点を問う。

- ① 令和元年第1回市議会定例会の補正予算において、知多南部広域環境センター建設地の土壌汚染に伴う適切な土壌処理費用が計上され可決された。5月の市議会協議会における報告資料では、汚染土壌処理との明記はあったものの、後日の報道によると、産業廃棄物処理費とされていた。口頭での説明はあったが報告資料に記載がないことについては看過できない。このことについて詳細な経緯はどうであったか。
- ② 知多南部広域環境センター建設予定地で新たに発生した費用を少しでも削減するため、元の土地所有者との話し合いを進めてほしいと思うが現状はどうか。

- ③ 知多南部広域環境センター建設に向けて、今後、建設費に係る資材の高騰等も懸念される。不測の事態に対応するための基金が必要と思うが、市の考えはどうか。
- ④ 他市町でも本市と同様にごみ袋有料化の動きがある。各市町において、大幅なごみ減量が想定されるが、現在のクリーンセンター常武への負担金と比べ、令和4年度以降の本市の負担金はどのように推移していく予定か。
- ⑤ 本市のごみ減量は着実に進んでいる。知多南部広域環境センターの運営費は各市町のごみの量によって決まるため、今後ごみの減量に向けて休むことなく取り組んでいかなければならない。現在の資源回収ステーションは、新開町6丁目の1カ所で午前みの運営であるが、今後は午後の稼働やあるいは、北部地区での資源回収ステーションの新設など速やかに計画していくことも必要である。そうした考えはあるか。
- ⑥ 本市の事業系一般廃棄物排出量は、平成23年度の5,943トンに対し平成30年度は9,488トンと大幅に増加した。まちの活力が増加したとも言えるが事業系のごみ減量も大きな課題である。今後の取り組みについてどのように考えているか。

### **発言順序3「3番」 大川 秀 徳 議員**

#### 1 常滑市民病院の経営状況及び半田市立半田病院との統合について

(1) 現常滑市民病院は、100人会議をはじめとする市民、市議会、市長はじめ市職員、大学関係の支援と、それに応えた病院職員の頑張りにより、平成27年5月に飛香台に新築移転された。また、半田市立半田病院は半田運動公園の東側（常滑市民病院に近い場所）へ新築移転することが決まり、常滑市民病院と統合することについても検討されている。常滑市民病院は移転から4年がたち、半田市立半田病院との統合に向けた協議の影響もあるのか、経営状況が悪化してきた。

そこで、今後の常滑市民病院について、以下3点を問う。

- ① 常滑市民病院の経営状況が今年度特に悪化してきたが、その要因及び対策は何か。
- ② 平成30年度末の現金預金残高は11億円程度であるが、今後どのように推

移していくか。

- ③ 統合に向けた半田市立半田病院との協議の進捗状況と今後の展開はどうか。

#### **発言順序4「10番」 中村崇春 議員**

##### 1 福祉政策について

(1) 子育て施策の充実や保育環境の整備、高齢社会への対応やひとり一人に寄り添った福祉政策など今後の福祉行政の拡充はさらに広がることが予想される。

そこで、今後の本市の福祉の考え方について、以下12点を問う。

- ① 耐震化されていない児童館及び大規模改修工事が必要な保育園への対応はどうか。また、年次計画として優先順位はどうか。財源確保の考え方と合わせて問う。
- ② 常滑幼稚園の建て替え計画の現状と建設場所の考え方、及び想定される総事業費と財源確保はどうか。
- ③ 民間によるこども園が開園して数年が経過したが、民間こども園参入によるよかった点、反省すべき点は何か。特に市の指導により改善された点は何か（波の音・風の丘・あるこ）。また、より充実を目指すため、さらに市はかかわるべきと思うが今後の方針について問う。
- ④ 児童発達支援センターちよがおかを民間に移管して数年たつが、市直當時と比べどのような違いがあるか。民間への事業移管の条件でもある3障害「身体障害」、「知的障害」、「精神障害」の受け入れはどうか。評価及び指導も含め問う。
- ⑤ 保育士の働き方改革はどうか。また、どのような方針で取り組むつもりか。
- ⑥ 児童虐待など深刻な問題も多い。相談や訪問など市でも取り組んでいるが、現在の人員では限りもあることを市議会文教厚生委員会の勉強会で感じた。こうした虐待は何かあってからでは遅いことから、事前に防ぐことが大切だと感じる。人的支援も含め増員すべきと思うが、その考えはあるか。
- ⑦ 福祉施策の充実を図る上で、子供の成長に対して悩み苦しむ保護者のために個々の事情に合わせた取り組みが大切であることから寄り添った対応を強

く求めたい。今後、市としてどのような対応を考えているか。

- ⑧ 重度心身障害者の介護者に対する本市独自の助成制度は、再生プランにより廃止された。常滑らしい政策であり評価すべきことと認識していたが、このまま廃止したままか。ぜひ復活を願うがその考えはないか。
- ⑨ 市内の老人クラブやシルバー人材センターでの活動は高齢者が生きがいを持ち活動できる組織と考える。市としてこれらの活動に対してどのような応援態勢を整えているのか。また、今後の取り組みはどうか。
- ⑩ 常滑市と常滑市民病院による市民公開講座が開催され、多くの人を訪れた。一つの考え方として参考になる講座であったが、今後一人暮らしの高齢者が増加していく中でアドバイスもあった。今後の一人暮らしの高齢者への対応はどうか。
- ⑪ 買い物の不自由な高齢者のために、青海地区及び檜原地区で試験的ではあるものの乗合事業を開始した。しかし、檜原地区では旅行業法に抵触している可能性も報道された。互いに知恵を出し地域の方が誠心誠意取り組んでいる事業を応援すべきである。法律違反とならないよう、特区などの研究は、市がすべき仕事ではないか。心温まる市の方針を問う。
- ⑫ 昨年開催された議会と語る会で出された意見として障がいを持つ方の避難対策について議会から市へ要望した。その後の取り組みについて問う。

## **発言順序5「2番」 西本真樹 議員**

### 1 農業集落家庭排水処理事業の使用料改定について

(1) 1986年から供用開始された農業集落家庭排水は、矢田・久米・前山・石瀬・宮山・桧原・小鈴谷・広目・坂井の9集落・8処理区からなり、2,115軒が加入し、し尿、生活雑排水などの汚水、汚泥を処理する施設として水質保全を進めている。接続率は高い地区で100%、低い地区で65%前後と供用開始の時期によってばらつきもあるが、平均86%と公共下水道の水洗化率65.4%と比べても高い接続率である。

今年6月の市議会協議会で、同一の公共サービスに対する住民負担を平等にすることを目的とし、農業集落家庭排水処理の使用料を公共下水道の使用料と統一する方針が出された。使用料の試算を見ると、全体で592万4,248円の値

上げとなる。

そこで以下 3 点を問う。

- ① 農業集落家庭排水及び公共下水道の接続率の向上によって周辺の水質保全の効果はどうか。
- ② 農業集落家庭排水処理事業は、平均 86% と高い接続率ではあるが、供用が遅れている地区では接続率が低い。農業集落家庭排水処理事業を安定的に維持継続するには接続率を上げることを優先すべきと考える。公共下水道事業で行われる改造資金融資あっせん制度のような制度を導入すべきと考えるが、接続率を上げるためにどのような取り組みを行っているのか。
- ③ 農業集落家庭排水処理事業は農林水産省、公共下水道事業は国土交通省と、事業としての成り立ちや開始時期などが違う。独立した会計として使用料は据え置くべきと考えるがどうか。

## 2 図書館の今後の方針について

(1) 本市の図書館は 1970 年に開館して以来、50 年近く経過している。その間一度も大規模改修をすることなく現在に至っている。2018 年度の耐震診断によると公共施設として望ましい耐震性が確保できていないが、市の財政状況から当面新図書館の整備は難しいとのことである。

この状況を受けて、本館の一般書を青海公民館と南陵公民館の中にある 2 つの分館に移転、子供図書室を新庁舎内に併設する。また、新図書館は 15 年以内に他施設との複合化の検討を進めるとの方針案が出された。

このことにより、人口の多い中部地区には一般書を常設する図書館機能がしばらくの間なくなる。そこで以下 2 点を問う。

- ① 7 月 20 日に開催された説明会の中で市民から意見が出ていたが、旧常滑高等学校を図書館として活用することはできないのか。
- ② 児童書については、子供たちが自分で本を借りに行けるよう、児童館や学校などに置くことはできないか。

## 3 常滑駅周辺土地区画整理事業について

(1) 常滑駅周辺土地区画整理事業は 2003 年から開始され 16 年が経過し、施工期間は 2020 年 3 月末となっている。

当初の計画では駅東側にもう一つのロータリーを設置することになっていた。しかし、計画どおり進めると、常滑駅を利用している市民や来訪者にとって利便性が悪くなり、使いづらいものになってしまう。

そこで、以下2点を問う。

- ① 駅東側にはロータリーをつくらず、既存の道路を活用し、拡幅することによって送迎スペース、歩道を確保すべきと考えるがどうか。
- ② 駐輪場は現在、駅南側と東側の2カ所で、事業完了時は駅南側1カ所になる。駅利用者は常滑南部地域の住民だけでなく、北部地域の住民も多く利用している。ロータリー計画を止めれば、駅東側にある臨時駐輪場を正式な駐輪場として残せると思うがどうか。

#### 4 消防の救急・救助の発生状況について

(1) 空港出張所は2011年度より、24時間体制から変則の日勤体制となっている。また、消防職員は、空港開港時100名体制であったが現在90名である。

2018年度、中部国際空港の利用者は1,200万人を越え、空港島には複合商業施設やホテルの新設や増設、今年度は国際展示場の開業やLCCに対応した新ターミナルがオープンし、市外からの来訪者が増加する。また、近年の猛暑による熱中症での救急搬送なども考えると、今後、消防の救急・救助の出場も多くなるのではないか。今の消防職員数では、常滑市在住・在勤者の命を守れるのか不安に思う。

そこで、以下2点について問う。

- ① 常滑市内及び空港島、りんくう町の消防の救急・救助の出場状況はどうか。
- ② 消防職員の増員をすべきではないか。

#### **発言順序6「5番」 伊藤直議員**

##### 1 鬼崎魚群市の充実について

(1) 鬼崎漁港で開催された魚群市は多くの人で賑わい、マスコミでも取り上げられるほど盛況のうちに終えた。常翔会内でもこうした取り組みについて、本市の観光施策の目玉として大きく育てていくべきだとの意見も多くある。

そこで、今後の取り組みについて、以下4点を問う。

- ① 毎月の来場者はどのように推移しているか。また、市としてこの取り組みをどのように感じているか。
- ② 市として応援すべき事業であると認識しているが、どのようなことを協力し、組合からその反応はどうだったか。
- ③ 市として今後どのように充実を図っていくべきと考えているか。市の課題及び組合の意向はどうか。
- ④ 魚群市を充実させるために常設の施設計画や駐車場の整備、観光バスの乗り入れ口の整備など必要と思うが、市の考えはどうか。

## 2 常滑市における地域猫問題の現状と今後の対策について

(1) 飼い主の飼育放棄などにより行き場所のない野良猫にエサをやることによって、そこに居ついてしまう猫がいる。また、そこから繁殖・捨て猫等により数がふえてしまい糞尿被害・繁殖期の鳴き声騒音被害などが発生し、場合によってはそこで住民トラブルなどに発展するケースもある。本市においてもこういった地域猫問題を抱えた地域が数カ所ある。

そこで、以下3点を問う。

- ① 本市に寄せられる苦情はどういったものがあるか。また、過去3年の地域別（中学校区）の苦情件数の推移はどうか。
- ② 今後、地域猫対策はどのように進めていくのか。
- ③ 常滑市環境美化条例第6条に愛がん動物（ペット）について定めているが、細かく規定されていない。細分化して改正するつもりはあるのか。

## 発言順序7「14番」 相羽助宣 議員

### 1 地域発展のために、中部国際空港セントレアと本市との連携の現状について

(1) インバウンド旅客の動向と、それに向けた取り組みについて、以下4点を問う。

- ① セントレアの年間外国人出入国者数と全国シェアはどのくらいか。
- ② 本市への年間外国人来訪者数はどれくらいか。また、人気の観光スポットはどこか。トランジット観光は行っているか。



③ 本市に外国人観光客を呼び込むために行った主な取り組みと、現状についてどのように総括しているか。

④ CHITA CATプロジェクトの現状と、新たな取り組みは考えているか。

(2) LCC向け新ターミナルについて、以下2点を問う。

① 新ターミナルでは週何便が運行される予定か。何社のLCC航空会社が就航するのか。また、エアアジアジャパン以外で本社を中部国際空港内に設置する航空会社はあるのか。

② エアアジアジャパンが運行開始した当時「我が街のエアライン」として地域を挙げて育てていく必要があると言われてきたが、どのように推移してきたか。

(3) 2本目滑走路に向けた現状について、以下3点を問う。

① 実現に向けた現状と、国はどのような見解か。

② 本市としてどのような取り組みを行っているか。

③ 実現に向けては、旅客数の増が重要と考えるが、特別職・議員・職員の、出張等においての年間利用者数はどれくらいか。また、中学校の修学旅行に飛行機は利用できないのか。

## 2 臨時職員の現状について

(1) 臨時職員なくしては、運営が難しい部署もあるのではないか。

そこで以下3点を問う。

① 各部の正職員・臨時職員は何人か。

② 働き方改革による、規定の変更はあるのか。

③ 市職員募集において、臨時職員の特別枠を設けて、採用試験を行い正職員になれるシステムを構築すべきと考えるがどうか。

## 発言順序8「4番」 渡 邊 十三香 議員

### 1 スポーツを通じた常滑市の活性化策と人材育成について

(1) 2020年オリンピック・パラリンピックが日本の東京で開催される。開催中は、世界各国から超一流のアスリートが東京に集い、白熱した戦いが繰り

広げられることであろう。開催まで残すところ1年を切り、国内も徐々に活気づいてきた。また、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会もいよいよ今月20日から開催され、さらに2026年にはアジア大会が名古屋で開催することも決定した。ほかの自治体では、スポーツ観戦イベントとしてパブリックビューイングなどに取り組むところも多い。本市においても国際的な大会をまちの活性化策の一つのチャンスと捉え、生かしていくことが大切に思う。半世紀ぶりのスポーツの祭典夏季オリンピック・パラリンピックについて、以下5点を問う。

- ① 本市ではオリンピック開催に向けてのイベント等は考えているか。
- ② 前回の東京オリンピックを当時学校のテレビで観戦したことを記憶している方が多くいる。中には19インチのテレビ画面をおよそ300人の生徒で囲んで観戦したと具体的に記憶している方もいた。このことは、オリンピックという大会を大勢で観戦することが、子供たちにとっていかに貴重な体験であるかを表している。今回のオリンピックも子供たちの人材育成としての十分な効果が期待できると考える。教育委員会としての取り組みについて施策はあるのか。また、子供たちにとってのスポーツ観戦の意義について、どのように考えているか。
- ③ ある市長の著書の中でも市の競輪場を利用し、サッカーのワールドカップをパブリックビューイングで観戦したところ、およそ3,000人の市民が集まり、かなりの経済効果を生んだことが書かれてあった。ボートレースとこなめの新スタンドにパブリックビューイング用のスペースを設けて新たなファン層の獲得に努めてみてはどうか。
- ④ 海外の健康に関する記事によれば、専門家の調査の結果「スポーツ観戦をする人はしない人よりも健康だということがわかった」とある。大きな声を出しての観戦は、入院患者の方たちにとっても「自然治癒力」を高めることはもちろん、入院中のよい気分転換になることは間違いない。市民病院内の「とこなめホール」を利用してパブリックビューイングを開催してはどうか。
- ⑤ スポーツで頑張る子供たちや世界で活躍する常滑出身の方々を広報とこなめ、ホームページ等で取り上げたらどうか。

## 発言順序9「9番」 井上恭子議員

1 よりよいまちにするために市民への適切なる回答を

(1) 毎回、一般質問で執行部の回答が質問とかみ合わない、間違っただけではないかという市民からの声をよく聞いている。また、市民からは行政に相談してもなかなか返事がないという苦情もたびたび聞いている。市は過ぎてしまったことだから仕方がないのではと、検証することを怠ってきたため、同じ間違いを犯してきているのではないか。間違いを指摘したいのではなく、今後これ以上の税金のムダ遣いをしないように、また、市民のためによりよいまちを目指すために、お互いが共通の認識を持つために以下4点を問う。

- ① 6月議会で、当初半田市に建設予定であった2市3町で建設されるごみ焼却場（知多南部広域環境センター）が、土壌汚染等のため、5年延長になり、各市町はそのために多額な損失をしたことを質問した。そして今後このような失敗が起こらないための対策を伺った。しかし、執行部の回答は、「2～3億円の支払いを含めて、半田市から武豊町になった経緯でそういう事実は一切ない」であった。また、透明化と専門家を求めるとの要望に対しても「組合は有識者を入れて事業をしているので、しっかりとやっている。」という回答であった。常滑市としては、知多南部広域環境組合がやってきたことに失敗はなく、全て問題なかったという認識でよいか。
- ② 昨年12月に行政から市民に対し、新市庁舎設計のパブリックコメントを実施したところ、市民から多くの意見が出された。そのため、要望する市民のために説明会が行われ意見交換がなされ、その結果、市庁舎設計の変更がなされることになった。また、昨年2月には市庁舎が当初複合化と計画されたことが、市民から4,500筆の署名を受け、複合化が差し替え前の予算書に掲載された後にもかかわらず市庁舎単独建設と変更となった。これらのことについて、市民から反対があったということを検証したのか。また、検証したならば、その内容を問う。
- ③ 今年2月に両親（常滑市内小倉在住）が子供の障がい者施設の問題で行政（こども課）に対し相談をして何回も督促をしたが、6カ月もの間返事なかった。その原因は何か。
- ④ 一般質問の通告書に提出した質問に対し当日回答がなかったため、後日回答を求めたが「答弁漏れの認識がなかったため、回答を控えさせてもらう」

として回答を得られなかった。今回市長にその質問を含めできない理由を求めたが、「一般質問の内容に関しては、それ以降の一般質問で対応していただくものと考えます」であった。これは市民の知る権利を遮る権力者の傲慢でしかない。これは市長の方針か。

## **発言順序 10「1番」 山田 豪 議員**

### 1 子供を取り巻く環境の問題（「子供の貧困」）への取り組みとしての奨学金制度について

（1）親の経済格差による子供の学ぶ機会の不平等をなくしていくため、大学や専門学校などの高等教育で学ぶ所得が低い世帯の学生を対象に、「授業料減免の拡充」と「給付型奨学金の大幅増額」が、2020年4月から実施される。国・県・市・民間の「奨学金制度」が多様化している。

そこで、以下2点を問う。

- ① 多様化されている奨学金制度の市内の子供たちや親への周知はどうなっているか。また、相談窓口での対応はどうか。
- ② 奨学金返還支援制度を行う自治体がふえているが、本市も見直しも含め、奨学金の充実をはかってはどうか。

### 2 本市の文化施設等を使用する展示会、イベント等のガバナンスについて

（1）8月1日から開催されている「あいちトリエンナーレ2019」では今回のイベントに関し、公がかかわるイベントのあり方について、～表現の不自由展その後～の展示内容が議論になった。今回、愛知維新の会は、『展示作品の中で「平和の少女像」「昭和天皇をバーナーで燃やす映像」「まぬけな日本人の墓」等、芸術ではなく政治活動的プロパガンダ目的の要素が強い作品が含まれており、多額な公金を投入し公の施設で行うイベントにふさわしくない。』という理由により即刻中止の要望書を愛知県知事に提出した。

そこで、以下2点を問う。

- ① 本市の文化施設等において過去、プロパガンダの要素を含む展示会やイベントが行われたことはあるのか。
- ② 今回の問題を受け、本市の文化施設等の「規約」は、政治活動やプロパガ

ンダ活動が行われるような「規約」になっていないか。改めて確認や見直しなどを行うべきと考えるがどうか。

#### **発言順序 11「7番」 成田勝之議員**

##### 1 小学校の水泳授業について

(1) 本年度から小学校のプールの集約が一部の学校で始まった。常滑西小学校は温水プール、西浦南小学校は西浦北小学校、小鈴谷小学校は南陵中学校で水泳授業を行った。また、常滑東小学校は2学期に温水プールで行う予定である。初めての試みであり、また、来年度以降、ほかの小学校でも集約化を予定していることから本年度を振り返り次に生かすことが大切である。

そこで、以下4点を問う。

- ① 授業のコマ数は予定どおり確保できたか。
- ② 送迎に関して問題はなかったか。
- ③ 温水プールの利用者から何か意見はあったか。
- ④ 集約してよかった点、改善が必要だと思われた点は何か。

#### **発言順序 12「16番」 盛田克己議員**

##### 1 職員の働き方の方針について

(1) 近年、日本では少子高齢化、労働力不足、年金財源問題が話題となっており、外国人労働者の受け入れ方針も出ている。民間では、既に65歳が定年で70歳まで再雇用をしている企業もある。また、65歳からの年金を70歳まで繰り下げ、40%上乘せした年金を受け取るという話題もある。そうした中で、民間ではロボットの導入による生産性向上(RPA)が図られ、さらに、事務的作業の省力化を目指して人工知能(AI)を活用した取り組みが進んでいる。また、自治体においても事務的作業の効率化を目指し人工知能を活用し効果を上げていたり、活用の準備を進めているところもある。

本市では65歳までの定年延長は国に準じると以前に答弁があったが、当然、事務作業の省力化に取り組むとともに定年延長や再雇用者の年齢引き上げについても考えなければならない。

そこで、以下3点を問う。

- ① 次の第7次定員適正化計画の方向性は決まっているか。
- ② 事務的作業の効率化は考えているか。また、AI、RPAを活用した省力化による職員の働き方改革は今後どうあるべきか。
- ③ 予想される人員増対策として、委託している草刈等を実施する部門を設けたらどうか。

## 2 小中学校のエアコン設置状況について

(1) 夏休み中には小中学校のエアコン設置工事が終わるが、今後の方向性について、以下2点を問う。

- ① 今後のメンテナンスと停電時の対応はどうなっているか。
- ② 音楽室などの日常的に使う特別教室への設置予定はどうなっているか。

## 発言順序13「12番」 伊 奈 利 信 議員

### 1 市民協働によるまちづくりについて

(1) 地域の課題解決や観光振興、活性化、文化継承など市民が主体となり、自発的に取り組まれている事業や活動が多くある。これらはまちづくりを進める上で、最も大切で、最も強い「市民の力」である。それぞれの事業や活動を行政と協働し取り組むことで、事業規模の拡大や広域的な情報発信、継続的な実施など、より充実した展開が可能となる。伊藤市長は施政方針の「協働によるまちづくり」において「とこなめ山車まつり」をできる限り支援すると示された。市民の力が結集し開催される「とこなめ山車まつり」を有意義な機会とし、より大きな成果を上げるためにも行政が果たす役割は重要と考える。

そこで、とこなめ山車まつりについて、以下3点を問う。

- ① 開催に向け、どのような支援を行っているか。
- ② 観光やシティプロモーションとして有効に活用できないか。
- ③ 継続的な開催を求める声が多くあるが、市の考えはどうか。